

会場のご案内



- 汐留駅 5番出口徒歩4分(大江戸線) 東口徒歩5分(ゆりかもめ)
- 新橋駅 汐留口徒歩7分(JR線) JR新橋駅・汐留方面改札徒歩7分(浅草線)
- 新橋駅 2番出口徒歩7分(銀座線)
- 東銀座駅 6番出口徒歩9分(日比谷線・浅草線)
- 築地市場駅 A2出口徒歩6分(大江戸線)

消化器疾患の患者さまの笑顔。

そんな、いい絵を描きたい。

消化器疾患で苦しむ人たちの
幸せに生きたい。自分らしくありたい。
その思いにしっかり応える私たちでありたい。
EAファーマは、
そんな未来の実現に向けて進んでいきます。



EAファーマは、消化器のスペシャリティ・ファーマです。

EAファーマは、エーザイグループの消化器事業と
味の素グループの消化器事業を統合・設立した製薬会社です。

EAファーマ株式会社
東京都中央区入船二丁目1番1号
<http://www.eapharma.co.jp/>



Eisai Eisai Group

「第20回臨床消化器病研究会」開催のお知らせ
肝胆膵の部 症例募集のお知らせ

肝胆膵の部 [3セッション]

8:50~10:40

主題1 肝:「肝嚢胞性病変の鑑別」

司会: 吉満 研吾 先生(福岡大学医学部 放射線医学教室)
植木 敏晴 先生(福岡大学筑紫病院 消化器内科)
病理コメンター: 中島 収 先生(久留米大学病院 臨床検査部)
基調講演: 小坂 一斗 先生(金沢大学附属病院 放射線科)

10:50~12:40

主題2 胆:「IgG4関連硬化性胆管炎と癌の鑑別に難渋した胆管病変」

司会: 菅野 敦 先生(自治医科大学 消化器内科)
海野 倫明 先生(東北大学大学院 消化器外科)
病理コメンター: 能登原 憲司 先生(倉敷中央病院 病理診断科)
画像コメンター: 蒲田 敏文 先生(金沢大学附属病院 放射線科)
基調講演: 糸井 隆夫 先生(東京医科大学 消化器内科学分野)

13:55~15:45

主題3 膵:「膵腫瘍に対するEUS-FNAを再考する」

司会: 瀧沼 朗生 先生(手稲溪仁会病院 消化器病センター)
清水 泰博 先生(愛知県がんセンター中央病院 消化器外科)
病理コメンター: 福嶋 敬宜 先生(自治医科大学附属病院 病理診断科)
基調講演: 入澤 篤志 先生(獨協医科大学医学部 内科(消化器))

消化管の部 [4セッション]

8:50~10:20

主題1 「消化管癌(形態学):下部消化管」

10:30~12:00

主題2 「炎症性腸疾患(IBD)」

12:10~13:00

主題3 「機能」

14:15~15:45

主題4 「消化管癌(形態学):上部消化管」

※消化管の部詳細は2020年4月頃、完成を予定しております。 ※上記時間配分は予定となります。

2020年11月21日(土) 8:45~16:00(予定)

ベルサール汐留 B1Fホール、2Fホール
B1Fホール「消化管の部」、2Fホール「肝胆膵の部」

〒104-0061 東京都中央区銀座8-21-1 住友不動産汐留浜離宮ビルB1・1F・2F ベルサール汐留

参加資格 オープン 会場費 3,000円

共催: 臨床消化器病研究会

〈事務局〉「消化管の部」岩手医科大学医学部 消化器内科消化管分野
「肝胆膵の部」手稲溪仁会病院 消化器病センター

EAファーマ株式会社 担当: 芦田 大輔 / 古屋 浩

臨床消化器病研究会HP <http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/>

第20回臨床消化器病研究会 「肝胆膵の部・演題募集」について

肝胆膵の部では、各主題で検討する症例を公募いたします。

肝胆膵の部 主題症例募集

「主題のねらい」に即した症例があれば、「症例申込表」・「画像・病理データ」をCDに保存の上、事務局宛にお送りください。

※「症例申込表」は、臨床消化器病研究会ホームページ(<http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/>)より入手できます。

締め切り:2020年5月29日(金)“消印有効”

送付先:臨床消化器病研究会(肝胆膵)事務局
手稲溪仁会病院 消化器病センター 宛
〒006-8555 北海道札幌市手稲区前田1条12丁目1-40
TEL:011-681-8111(内2050) FAX:011-685-2967
e-mail:tkgc@tb3.so-net.ne.jp

※本研究会では、各セッションの様様をDVDに収録し、研究会終了後に希望者に貸出します。応募にあたっては、予めご承知おきください。

注意事項

1)「抄録」

※「臨床消化器病研究会 症例申込表」を使用し、以下の項目を必ずご記入願います。

- 応募する「領域」「主題」
- 演題名、所属、氏名
- 症例の要旨(400文字以内)
- 症例申込表とともに送付いただく資料の種類、枚数(資料別)

2)「画像・病理データ」

※パワーポイントで作成し、以下の画像・病理データをご提出願います。

- 画像所見(X線所見、内視鏡所見など)
- 切除標本所見(マク口)
- 病理組織所見(ミク口)
- その他、症例検討に必要な資料

※病理標本現物(プレパラート)は、送付しないでください。

3)「症例申込表」、「画像・病理データ」は、CDに保存の上、ご提出願います。

主題1

肝:「肝嚢胞性病変の鑑別」

司 会:吉満 研吾 先生(福岡大学医学部 放射線医学教室)

植木 敏晴 先生(福岡大学筑紫病院 消化器内科)

病理コメンテーター:中島 収 先生(久留米大学病院 臨床検査部)

基調講演:小坂 一斗 先生(金沢大学附属病院 放射線科)

(単純嚢胞を除く)肝の嚢胞性病変には、炎症性(感染、非感染含む)、腫瘍性いずれも含まれその臨床画像の特徴、病理像ともに多岐に渡る。典型的疾患は比較的容易に診断可能であるが、非典型例や希な疾患(濃染する隆起性充実部を持つ出血性嚢胞、multicystic biliary hamartoma, ciliated forgut cyst等)も悪性腫瘍や他疾患に類似した所見を呈する場合があります。日常診療の中では診断に難渋することも少なくない。本講演ではまれな嚢胞性肝腫瘍を取り上げることで、その臨床画像上の特徴を整理し、典型例以外の肝嚢胞性病変の幅広いスペクトラムを理解することを目標とした。

炎症性、腫瘍性を問わず、切除され最終診断が確定した、術前診断が困難であった肝嚢胞性病変を広く公募するので多数の応募を期待したい。

主題2

胆:「IgG4関連硬化性胆管炎と癌の鑑別に難渋した胆管病変」

司 会:菅野 敦 先生(自治医科大学 消化器内科)

海野 倫明 先生(東北大学大学院 消化器外科学)

病理コメンテーター:能登原 憲司 先生(倉敷中央病院 病理診断科)

画像コメンテーター:蒲田 敏文 先生(金沢大学附属病院 放射線科)

基調講演:糸井 隆夫 先生(東京医科大学 消化器内科学分野)

IgG4関連疾患は、臓器毎の診断基準や診療ガイドラインの普及に伴い、その診断が容易になった。特に、自己免疫性膵炎は、EUS-FNAの進歩に伴い組織採取が容易となって、診断に難渋することが少なくなった。一方、IgG4関連硬化性胆管炎(IgG4-SC)は、胆管狭窄が多彩である事に加え、胆管病変の組織採取は困難であるために、胆管癌や膵癌との鑑別を含め、その診断に苦慮する症例が多い。本セッションでは、IgG4-SCと癌の鑑別が困難であった症例を提示して頂き、その診断や治療の過程を参加者と共有するとともに、胆道病変に対する適切なアプローチについて議論したい。ご応募頂く症例の最終診断がIgG4-SC・癌のどちらでも構わない。画像と病理の対比のために切除症例の提示が望まれるが、切除しなかったIgG4-SC症例も歓迎する。両者の鑑別に難渋した興味深い症例の応募を期待する。

主題3

膵:「膵腫瘍に対するEUS-FNAを再考する」

司 会:瀧沼 朗生 先生(手稲溪仁会病院 消化器病センター)

清水 泰博 先生(愛知県がんセンター中央病院 消化器外科)

病理コメンテーター:福嶋 敬宜 先生(自治医科大学附属病院 病理診断科)

基調講演:入澤 篤志 先生(獨協医科大学医学部 内科(消化器))

EUS-FNAが本邦で保険収載されてからすでに10年が経過し、現在では広く日常臨床で用いられるようになっていく。EUS-FNAの特徴としては高い診断能と低い偶発症率があげられる。特に膵腫瘍に対しては、膵癌の治療前の組織学的確証を得ること、鑑別診断困難な膵腫瘍に対する組織学的診断法として大きな役割を担っている。今後はさらにゲノム医療を目的とした、EUS-FNA検体を用いる遺伝子パネル検査への応用など、益々のその発展が期待される。しかしながら、EUS-FNA後のNeedle tract seedingが本邦を中心に報告が散見されるようになってきている。また膵上皮内癌診断は基本的には困難であること、さらにEUS-FNAが陰性の結果となった場合にどのような対処をするか、切除可能膵癌および切除可能境界膵癌に対する術前化学療法の有用性が示されつつあり、術前治療症例に対して適応をどうするか、などの課題も残されている。本セッションでは、EUS-FNAが有用であった症例、今後の展開が期待される症例、あるいは播種例を通して学べる症例などを報告いただき、EUS-FNAの役割について再考したい。多くの症例応募を期待している。